

主の御住まいに宿る人

2021年3月14日

詩篇 14篇、15篇

序：対になっている二篇

世の人と神の民、罪人と義人（生まれながらの人と義とされた人）
救われる前と後

I. 生まれながらの人

愚か者……自分が存在 = 神が創造 を認めない
心の中で、「神はいない」 = 思い、心情の罪

腐敗 的外れ

忌まわしい行い、不正／善を行わない（神の基準での）
不法を行う = 行為における罪
主を呼び求めない

すべての者が離反した ⇒ 無用の者となった
迷い出た イザヤ 53・6
私たちはみな、羊のようにさまよい、それぞれ自分勝手な
道に向かって行った

神を信じる者を食い物にし、迫害、虐待（無慈悲、無神経、自己中心、傍若無人）
踏みにじる

日常茶飯事

しかし、悪人、不敬虔な者、迫害者も、内心大いなる恐れがあった（対神、対人）
神が正しい者とともにおられる

II. 天の神

天から人を見下ろす（小さく、卑しい、反逆者、恩知らず）
神を求める者なし
すべての人は離れて行き、無益となり、善を行わず、人間同士で弱肉強食、暴虐
神はごらんになっている

ただしい者たちとともにいる
神は彼らの避け所

神の介入
イスラエルの救い
御民を元通りにする
勝利の喜びと楽しみを与える

III. 義人（義とされた者）

神を信じることによって、全人的に変えられる

心の思い・願い = 神の幕屋に宿りたい（主とともに過ごす、聖い交わり）
聖なる山に住みたい（いつも、いつまでも）

行い・すること = 全き者として歩む（生活する・生きる）
義を行う
心の中の真実を語る（× 二心、本音と建前）
主に捨てられた者を蔑む（人間的なれあいを退ける）
主を恐れる者を尊ぶ

しないこと＝ 中傷、そしり、悪行（友人、隣人に対して）
誓ったことは変えない（契約・約束を守る、損になっても）
利息をつけて金を貸さない
賄賂を受け取らない（潔白な人が不利、さばきを曲げる）

このように、行う人は決して揺り動かされない

Ⅳ. 私たち

(1)例外なく、生まれながらの人（罪人、愚か者）として生きていた
神はいない（ことにしておこう）
全体が罪という死病のために腐っていた、無益、神に背反
善を行う意思も実行もなかった（神の目の前）
自分が善を行っていると言他ともに見せるための偽善（人の目）
神を無視して、冒涇 ⇒ 隣人への愛なし、暴虐
不法は日常茶飯事

(2)途中のある時点で義人（神の子ども）とされた（義化）
自分の罪（神への罪）を認め、悔い改めた
キリストの贖いを自分の救いのため、と受け入れた
神が義と宣言してくださった（無罪判決）
まず、たましい（心）がきよめられた

(3)行いも変えられてきた（聖化）……善い行いは救いの結果・実
条件ではない
心・目・舌・手足に主の目は注がれている

(4)将来を望み見て、喜び踊る
救いは主なる神から来る
御民を回復される時が来る
今は悪の支配する世にあり、いつまでも続くように見えても

(5)むしろ、揺るがされることなく、善を行え
自分の思い・行いを日々、ひとつひとつ点検
大祭司ですら不可能だった主とともに宿る・交わることが可能になった
主イエスの血によって、大胆にまことの聖所に入ることができる
ヘブル 10・19
だからこそ、2～5節のように聖化されることを！
教理が生活において、具体的に反映されるように